

令和4年度（2022年度） 第2回 熊本市社会教育委員会議資料

目 次

ページ

令和4年度熊本市社会教育委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【 議 事 】

(1) 学校・家庭・地域の連携協力推進事業等の実施について・・ 2

【 報 告 】

(1) 熊本市立金峰山少年自然の家新施設整備運営事業
について・・ 13

【 参 考 】

・参考資料（関係法令）

令和4年度熊本市社会教育委員名簿

(区分別・五十音順・敬称略)

区分	氏名	所属団体・役職等	備考
学校教育	奥村 浩介	熊本市小学校長会 熊本市立月出小学校長	新任
社会教育	加藤 貴司	熊本市地域公民館連絡協議会会長	
社会教育	小澄 直	一般社団法人 熊本青年会議所常務理事	
社会教育	新道 欣也	熊本市青少年健全育成連絡協議会会長	新任
社会教育	田中 洋子	市民公募	
社会教育	村山 淳子	熊本市地域婦人会連絡協議会副会長	新任
家庭教育	石井 恵子	特定非営利活動法人 教育支援プロジェクト マスターズ熊本理事長	新任
家庭教育	高梨 沙織	熊本市PTA協議会常任理事	新任
学識経験者	八幡 彩子	熊本大学大学院教育学研究科教授	

任期：令和3年(2021年)6月1日から令和5年(2023年)5月31日まで

学校・家庭・地域の連携協力推進事業等の実施について

1 社会教育委員会議での検討について

地域と学校の連携・協働体制構築事業及び地域における家庭教育支援基盤構築事業については、文部科学省が定める学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金実施要領（令和4年3月31日文部科学省総合教育政策局長・初等中等教育局長決定）に基づき実施しており、社会教育委員会議では、地域学校協働活動の総合的なあり方や各地域学校協働活動の実施方針等について検討する。

地域学校協働活動

地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動

2 地域学校協働推進事業について

（1）概要

幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を一体的に推進するものである。また、本活動を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子供たちが安心して暮らせる環境づくりを推進する。

（2）実施（運営）主体

都道府県、政令指定都市又は中核市（間接補助事業として行う場合は市町村等を含む）。また、事業の一部を適当と認められる社会教育団体等に委託して行うことも可能）

（3）国庫補助率（国庫補助金名）

予算補助 1 / 3（学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金）

（4）本市における学校・家庭・地域の連携による地域学校協働活動

放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して全ての子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する放課後等の支援活動

（ア）学びたいむ（教育委員会事務局学校教育部指導課）

（イ）放課後こどもスポーツ教室（経済観光局スポーツ・イベント部スポーツ振興課）

（ウ）子ども科学・ものづくり教室（教育委員会事務局教育総務部熊本博物館）

（エ）子ども講座・子どもチャレンジ公民館（文化市民局市民生活部生涯学習課）

（オ）放課後学習教室（健康福祉子ども局子ども未来部子ども政策課）

3 地域における家庭教育支援基盤構築事業について

(1) 概要

家庭や地域と学校との連携・強化を図りつつ、家庭教育支援員の養成等を行い、身近な地域における保護者への学習機会の提供や親子参加型行事の実施、相談対応や情報提供等の支援活動の実施に加え、児童虐待の未然防止・早期発見などの対応を含め、支援が行き届きにくい家庭への対応を充実させることにより、地域における家庭教育支援の基盤を構築する。

(2) 実施（運営）主体

都道府県、政令指定都市又は中核市(間接補助事業として行う場合は市町村等を含む。また、事業の一部を適当と認められる社会教育団体等に委託して行うことも可能)

(3) 国庫補助率（国庫補助金名）

予算補助 1 / 3（学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金）

(4) 本市における家庭教育支援総合推進事業

家庭教育支援活動(教育委員会事務局教育総務部青少年教育課、文化市民局市民生活部生涯学習課)

保護者等への家庭教育に関する情報や学習機会の提供、地域で家庭教育を推進するための人材養成など、全ての親が安心して家庭教育を行うための支援活動

令和4年度 学びたいむ（教育委員会事務局学校教育部指導課）

1 令和4年度（2022年度）の実施状況について（小学校）

- (1) 目的 児童の学ぶ意欲の向上や学びの習慣化を目指し、基礎学力の定着を図る。
- (2) 実施期間 令和4年4月～令和5年3月
- (3) 実施回数 ・授業日の放課後に、各学校の計画により1回1時間程度
・長期休業期間中に、各学校の状況に応じて開催
- (4) 実施校数 感染防止などの対応から、学びたいむサポーターの活用を希望した学校は24校。（サポーターを活用しない学びたいむ実施校は22校）
- (5) 実施内容 タブレット学習支援アプリ「ドリルパーク」等を活用した学習指導
- (6) 学びたいむサポーターを活用した実施校（当初数）

実施時期	夏季休業期間	授業日の放課後
実施した学校数	7校	17校

- ・感染防止等の観点から、令和2年度より学生サポーターを活用せず、朝自習や特定曜日の6時間目、また夏季休業期間等を活用し、教職員のみで実施する学校が徐々に増えている。

(7) 学びたいむ（旧学びノート教室）サポーター登録数（人）

名称	学びノート教室			学びたいむ		
	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
サポーター数	178	176	158	97	70	74

(8) 本年度実施校における課題と工夫（24校）

自校における運営上の課題（複数回答）

課題	実施時間	サポーターの確保	担当職員確保	ドリルパーク以外の教材準備
割合	13.3%	53.3%	20.0%	13.3%

自校における運営上の工夫（複数回答）

工夫	実施時間	担当職員配当	開催時期
割合	33.3%	26.7%	40.0%

実施校調査から、コロナ禍で学生によるサポーターと実施時間の調整が難しいという声が多かった。このため、朝自習など教育課程内で教職員が学びたいむを実施する学校も増えている。一方、一斉下校等で下校時間まで時間確保が難しい学校では、月に1、2回の5時間授業を設定して学びたいむの時間を確保したり、開催時期として夏季休業期間を模索したりする動きもある。

2 令和5年度の実施計画について

- ・各学校では、学習支援アプリを中心教材に、市学力調査の復習プリントやつまづき個所を自ら学ぶアプリに加え、データで配付の「学びノート」等を活用し、各学校の実態に応じ、実施回数、実施時期、対象学年等を工夫して実施していく。
- ・令和5年度は、学習支援アプリが4教科（国・社・算・理）で可能となる。これに伴い、次年度の学びたいむでは、感染状況を注視しつつ、一人1台端末で個に応じた活用ができる学習支援ソフトを使用して、支援を必要とする児童への学びたいむを実施していく。

放課後こどもスポーツ教室（経済観光局スポーツ・イベント部スポーツ振興課）

1 事業内容

放課後こどもスポーツ教室事業は、地域住民が自主運営している「総合型地域スポーツクラブ」や「校区体育協会」等が実施主体となり、こども対象のスポーツ教室を行い、こどもたちのスポーツ機会の拡充、地域コミュニティの向上等を目指す。

放課後や休日の学校運動施設を活用することで、こどもたちの安全・安心な居場所づくりを、また同時に地元の総合型地域スポーツクラブや校区体育協会等が教室運営することで、地域住民とこどもたちの交流を図りながら、地域でのこどもたちの学びの場を提供する。

スポーツ教室は、原則として課業日放課後に開催。それぞれの教室で、各種運動・スポーツ・レクリエーション活動等を行う。

- | | |
|----------|--|
| (1) 実施期間 | 令和4年（2022年）7月～令和5年（2023年）3月 |
| (2) 実施場所 | 各小学校運動場や体育館 |
| (3) 対象者 | 主として小学3年生 |
| (4) 募集定員 | 各校30名程度 |
| (5) 実施日等 | 年間20回実施、1回2時間程度の活動
月曜日放課後実施：富合小・画図小
水曜日放課後実施：高橋小・東町小 |
| (6) 参加費 | 参加者保険料800円（参加者負担） |

2 活動の実際（各教室の主な活動内容）

高橋小	フリスビー、工作教室、スポーツ教室（跳び箱）、走り方教室、モルック、Tボール、バドミントン、サッカー、バスケットボール、バレーボール
東町小	陸上、うんてい、ラダー、ボール運動、棒を使った運動、跳び箱、体づくり運動
富合小	スラックライン、ランニング、体幹トレーニング、バレーボール、バスケットボール、長縄跳び、スポーツ鬼ごっこ、ボッチャ、モルック、ドッチボール
画図小	ドッチボール、鬼ごっこ、跳び箱、マット、ボール投げ、コーディネーション、ボールフィーリング、スプリント、バスケットボール、バレーボール



モルック（高橋小）



うんてい（東町小）



長縄跳び（富合小）



跳び箱（画図小）

3 参加人数(3年生児童数)

	高橋小	東町小	富合小	画図小	合計	※高橋小は2・3年生
参加者(人)	26	12	33	29	100	
在籍数(人)	36	114	154	159	463	
加入率(%)	72%	11%	21%	18%	22%	(R4年度)

4 来年度の実施について

- ・スポーツ振興課と運営主体となる総合型地域スポーツクラブ等で協議し、実施校を選定。
- ・本年度からの実施校に加えて、新たに実施校を選定し、実施予定。
- ・スポーツ教室の実施会場である小学校とも協議し、会場使用可能な曜日で実施。
- ・教室の実施回数は年間20回程度を予定。
- ・1学校につき2年間の事業を実施し、その後は総合型地域スポーツクラブ等による自主運営のスポーツ教室へと移行していく。

5 自主運営について

- ・2年間の委託事業を終えたら、クラブの自主運営にて教室を継続する方向で勧めている。
- ・市の委託時と同様に、実施会場である小学校と協議し、会場使用可能な曜日で実施予定。(土曜を含む)
- ・参加費は受益者負担となり、募集定員や実施回数、対象学年等を含め、地域の実態等を考慮し、運営主体団体で検討する。

6 今後の実施計画

- ・令和5(2023)年度は、継続3校、新規1校で実施予定。

実施校名	担当クラブ	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
高橋小学校	NPO法人スポレク・エイト	継続2年目	自主運営へ	
東町小学校	東部地域総合型スポーツクラブ	新規1年目	継続2年目	自主運営へ
富合小学校	NPO法人とみあい総合型クラブ			
画図小学校	画図人設立準備委員会			
新規小学校(未定)	(調整中)		新規1年目	継続2年目

子ども科学・ものづくり教室（教育委員会事務局教育総務部熊本博物館）

1 目的

小中学生向けに「科学実験や科学工作（ものづくり）」等の直接体験の場を設け、子どもたちが楽しく活動しながら、自然科学の原理や技術（歴史や伝統文化に関する内容も一部含む）について学ぶ機会を提供する。

2 令和4年度(2022年度)の実施状況について(1月末時点)

本年度は、館内他行事との調整その他で2回の中止はあったものの、ほぼ当初の計画どおりに開催できている。新しい生活様式を実践しながらウィズコロナの時代に移行しつつあることを現場でも実感する昨今である。ただし、令和4年度も自由参加型の教室は開催せず、全て事前応募・少人数定員制で実施中。

1月末時点で、17題材：39回の教室を行い（内、塚原歴史民俗資料館で5回）、参加者数は719人（昨年同月末：516人）。最終的には前年度実績（全23回、893人）を上回るものと見込んでいる。

水と空気、光と色、電気と磁力、さまざまな力などをテーマに、NPO団体等との共催事業も継続しており、内容の充実を図っている。

そのほか、市立の公民館や施設、学校からの要請に応じて別途（数回）出前講座も実施し、本事業の周知・拡大に努めている。

教室名	開催日	実施数	対象者	指導者	参加数
空気砲ボウリングを楽しもう	4/17(日)	延べ 2回	小中学生	研究員	27
風船CDホバークラフトを作ろう	4/23(土)	" 2回	"	" "	37
ミョウバンの結晶を作ろう	5/ 5(祝)	" 2回	"	" "	36
巴型銅器のレプリカを作ろう	5/22(日)	1回	"	学芸員・研究員	15
おもしろ実験に挑戦!	6/11(土) 7/23(土)	延べ 4回	一般参加	研究員・ものづくりサークル	42
箱の中に虹を作ろう	6/25(土)11/ 5(土)	" 3回	小中学生	研究員	69
水中UFOキャッチャーを作ろう	7/ 2(土) 8/20(土)	" 3回	"	研究員	61
宙返りバードを作ろう	7/ 9(土) 3/ 4(土)	" 2回	"	研究員	32
コイルモーターを作って回そう	7/31(日) 9/24(土)	" 3回	"	研究員・ものづくりサークル	49
紙バックカメラを作ろう	8/ 6(土) 9/10(土)	" 2回	"	" "	44
大気圧と真空の実験ショー	8/13(土)	" 3回	一般参加	研究員	60
液体窒素実験ショー	10/ 8(土)	" 3回	"	学芸員・研究員	64
葉脈標本でしおりを作ろう	10/22(土)	" 2回	小中学生	" "	34
アンモナイトのレプリカ作り	11/12(土)	" 2回	"	" "	34
くるくる回るシャボン玉作り	11/26(土)	" 2回	"	" "	49
電波教室&ラジオ作り	12/17(土)	1回	"	研究員 電波適正利用推進員 アマ無線	28
活性炭電池を作ろう	1/14(土) 2/ 4(土)	延べ 2回	"	研究員・ものづくりサークル	38
静電気グッズを作って遊ぼう	2/12(日)		"	研究員	
銅鏡のレプリカを作ろう	2/25(土)		"	学芸員・研究員	
紙バック(Back!)を作ろう	2/26(日)		"		
春の体験ミュージアム2023	3/17(日)		"	研究員・大学	
紫キャベツ紙で不思議なお絵かき	3/25(土)		"	研究員・ものづくりサークル	
1月末時点の実績		教室：延べ回数	39回	参加者総数：	719人

【全：22題材 網掛け部分は予定（未実施分）】

3 令和5年度(2023年度)の実施計画について

次年度も、当館「実験・工作室」「講堂」及び南区域南町：熊本市塚原歴史民俗資料館（当館所管）を会場に全30回程度の教室を計画している（内、塚原：7回）。

今後も理工担当研究員だけでなく、地質・植物・考古・保存科学担当学芸員とも協力しながら内容の工夫・改善及び、新しい題材開発に努める。また、大学・高等専門学校等の教育機関、NPO団体等との連携促進、運営に共同参画できる人材活用を図り多くの児童・生徒の興味・関心を高め、科学的な探究心の育成に寄与する。

子ども講座（文化市民局市民生活部生涯学習課）

1 事業内容

子どもたちにとって充実した休日（土曜・日曜・祝日・長期休業期間）となるように、子どもや親子を対象とした子ども講座や公民館開放講座開催した。

子ども講座：主に小・中学生（親子含む）対象に開催するもの。

公民館開放事業：公民館施設（ホール・会議室・ロビー等）を開放し、当日受付にて、将棋、お話し会、夏休み学習、大学生企画イベント等を開催するもの。

- (1) 実施時期 令和4年4月～令和5年3月
- (2) 実施日 土・日・祝日及び長期休業期間
- (3) 実施場所 各公民館等

2 実施状況(令和4年12月末時点)

(1) 概要

各公民館それぞれの環境を活かし、多様な講座を開催している。令和4年度は新型コロナウイルスの影響による休館はないため、昨年度に比べて講座数・受講人数ともに増加している。

【参考】令和3年度（年間実績） 145講座開催 1,782人受講

- (2) 対象者 幼児、小学生、中学生
- (3) 指導者等 各講座講師
- (4) 講座数 189講座
- (5) 受講人数 2,431人

中央区

公民館名	主な講座	講座数	受講人数
中央	ちびっこのためのおはなし会・子どもそろばん教室	22	256
大江	こども生け花教室・キッズ英会話を楽しもう	7	88
五福	天体観測クラブ・熊大メイクフレンズ班活動	7	54
計		36	398

東区

公民館名	主な講座	講座数	受講人数
東部	おはなしのへや・親子ものづくり	9	60
託麻	カービング講座・水墨画講座	14	192
秋津	小学生書き方教室・親子で作る「米粉ピッツア」	15	230
計		38	482

西区

公民館名	主な講座	講座数	受講人数
西部	健康空手・親子でクリスマスケーキ作り	10	117
花園	生け花教室・映画ワークショップ	2	25
河内	家族でタケノコ掘り体験・河内川で水生生物調べ	4	64
計		16	206

南区

公民館名	主な講座	講座数	受講人数
南部	キッズダンス・親子プログラミング体験教室	8	208
幸田	トランポリン教室・子ども将棋教室	13	174
飽田	マット・とび箱講座・絵画・ポスター講座	6	135
天明	親子で運動遊び・キッズ英語	9	78
富合	子ども舞踊・中無田閨門で遊ぼう！	17	281
城南	親子スーパー竹とんぼづくり・学ぼう世界の国々	12	155
計		65	1031

北区

公民館名	主な講座	講座数	受講人数
龍田	親子陶芸教室・キッズ・イングリッシュ	3	60
清水	教育相談室・子ども生け花	17	101
北部	ほくぶキッズ遊学塾・ゆかたの着つけと楽しいマナー	7	32
植木	お助け！夏休みの宿題・子どもかけっこ教室	7	121
計		34	314

3 今後の事業実施について

令和4年度は新型コロナウイルスの影響は比較的少なかったが、オンライン講座などのコロナ禍で新しく身に着けたノウハウを活用して事業を継続していく。

子どもチャレンジ公民館（文化市民局市民生活部生涯学習課）

1 事業内容

現代の子どもたちのニーズを事業に反映させ、「プランナー」と呼ばれる子どもたちが主役となって、自らイベント等を企画・運営することで、仲間づくりやイベント終了後の達成感・充実感を味わえる貴重な交流体験の機会の提供を図る。

区ごとに実施中心館を一年交代にして、区の特徴を生かしながら事業を実施することで、子どもたちが気軽に利用できる、身近な公民館となるよう取り組んでいく。

- (1) 実施時期 令和4年4月～令和5年3月
 (2) 実施日 土曜・日曜・祝日及び長期休業期間
 (3) 実施場所 各公民館及び館外 等

2 実施状況

(1) 概要

西区については協議の上で新型コロナウイルス対策のため今年度の活動を見送るなど、令和4年度も活動を縮小した形での活動となった。

- (2) 対象者 小学生
 (3) 支援者 公民館社会教育主事及びボランティア等
 (4) 各区の事業（令和4年12月末現在）

中央区 主担当：大江公民館 支援者：中央区社会教育主事、講師、熊大メイクフレンズ

イベント	期日・期間	場所	内容	受講人数	支援者
アツアツわっしょい大江の夏祭り	7月31日	大江公民館 大ホール	班ごとにゲームで楽しむ	36人	9人
ハロウィンフェスティバル	10月9日	大江公民館 大ホール	班ごとにゲームで楽しむ	24人	9人

東区 主担当：託麻公民館 支援者：東区社会教育主事、講師、劇団員

イベント	期日・期間	場所	内容	受講人数	支援者
子ども劇がやってくる	11月27日	託麻公民館 大ホール	ワークショップ&観劇「MOMO太郎」	85人	3人

西区 主担当：西部公民館 支援者：西区社会教育主事、講師

イベント	期日・期間	場所	内容	受講人数	支援者
新型コロナ感染予防のため実施せず	-	-	-	-	-

南区 主担当：幸田公民館 支援者：南区社会教育主事

イベント	期日・期間	場所	内容	受講人数	支援者
お昼ご飯を作ってみなで食べよう。	9月24日	幸田公民館	季節の素材を使ったカレー作り	4人	4人
中牟田閘門で自然体験をしよう。	10月8日	中牟田閘門 プレーパーク	自然観察・弓矢体験・カヌー乗船体験	48人	7人
子ども秋まつり。楽しい!	10月22日	幸田公民館	秋まつりをしよう。～アナログ体験～	29人	5人

北区 主担当：清水公民館 支援者：北区社会教育主事・熊大メイクフレンズ

イベント	期日・期間	場所	内容	受講人数	支援者
みんなであいあい夏祭り	8月6日	清水公民館ホール	「夏祭り」をテーマに、ゲームを中心としたイベントの開催	20人	9人
クリスマスの準備をしよう	12月3日	清水公民館ホール	「クリスマスの準備をしよう」をテーマに工作をする	16人	16人

3 今後の事業実施について

本事業は、平成15年度からの継続事業であり、公民館社会教育主事を中心に大学生やNPO団体等の支援者協力のもと、子どもプランナーが企画会議を経て、イベントを企画・運営する事業として定着している。今後も新型コロナウイルスによる影響を考慮しながら可能な限り事業を実施していく。

放課後学習教室（健康福祉局子ども未来部子ども政策課）

1 令和4年度（2022年度）の実施状況について

（1）目的

子どもの貧困対策の推進の取組として、子どもの将来が家庭の環境で左右されることなく、世代を超えて連鎖することがないように、教職員退職者や大学生等による空き教室を活用した「放課後学習教室」を実施することで、子どもたちの学習の機会の確保と充実、子どもたちの学ぶ意欲の向上や学習の習慣化、基礎学力の定着を図る。

令和元年度～事業実施

（2）実施内容

学校の空き教室を利用し、学校での学習に係る予習及び復習の支援、家庭学習や自主学習の支援、その他、生徒の社会性等の向上に係る支援を行う。

（3）実施期間

令和4年6月～令和5年3月（終了月は予定）

（4）実施校数

中学校7校

（5）指導員

教員退職者（13人）、大学生（2人）

（6）実績（令和4年12月末現在）

令和4年度	A中学校	B中学校	C中学校	D中学校	E中学校	F中学校	G中学校	合計
実施回数	32	29	32	21	22	26	33	195
参加人数	217	379	348	188	402	322	253	2109

週2回・1回1時間程度実施

2 今後の計画について

- ・令和5年度は上記7校に加え、新たに3校で実施予定。
- ・引き続き、実施校、教育委員会及び退職校長会等の協力を得ながら、子どもたちの学習機会の充実を図る。

家庭教育支援活動

(教育委員会事務局教育総務部青少年教育課・文化市民局市民生活部生涯学習課)

家庭教育は、基本的な生活習慣の習得、自立心の育成、心身の調和のとれた発達などに大きな役割を担うものであるが、家庭環境の多様化や地域社会の変化により、家庭教育力の低下が指摘され、社会全体での支援の必要性が高まっている。

そこで、家庭教育の担い手である親の学びを支援するため、家庭教育に関する学習機会の提供を行うとともに、身近な場所で家庭教育推進を担う地域人材の育成に取り組む。

1 事業内容及び実施状況

(1) 家庭教育推進事業

ア 家庭教育セミナー

乳幼児期から高校生までの子どもを持つ親を主な対象として、幼稚園・小中学校やPTA、企業等からの申込みにより講師や進行役を派遣。専門講師による講演会型と、県が作成したくまもと「親の学び」プログラムを活用したワークショップ型がある。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度からはオンライン版の家庭教育セミナーも開催している。

	R1	R2	R3	R4
件数	70	5	7	8
参加者数	6,391	324	1005	261

R5.1月未現在。

テーマ例：子どもとのかかわり方、家庭で行うしつけやルール 等

イ 家庭教育地域リーダーステップアップ研修

平成22～30年度までの家庭教育地域リーダー養成講座修了生のスキルアップと、人材交流による家庭教育支援の広がりを目的として実施。

熊本市教育センターのYouTubeチャンネルを通じ講座を動画配信しており、年間を通して視聴することができる。(R5.1.31時点での合計再生回数1167回)

(2) 家庭教育学級

保護者が自ら課題を持ち寄って主体的に計画・運営する学習について支援する。

(ア) 開設単位 学校及び幼稚園・保育園

(イ) 実施期間 4月～翌3月

(ウ) 開設学級数 53学級(幼稚園1、小学校46、中学校6) 昨年度比27増

2 今後の事業実施について

(1) 家庭教育推進事業

ア 家庭教育セミナー

新しい生活様式に対応した、小規模の学習会やオンラインによるセミナー、動画コンテンツの作成に取り組んでいく。また、教育広報誌「with you」を活用し、学校や PTA での利用を促していく。

イ 家庭教育地域リーダーステップアップ研修

家庭教育地域リーダー養成講座については、令和元年度（2019 年度）より休止。

ステップアップ研修は、個々のスキルアップを行うとともに、実践的スキルの獲得ができるよう、講座内容のさらなる充実を図る。また、家庭教育地域リーダー同士のネットワークをさらに強化することで、家庭教育支援活動の広がりを目指す。

(2) 家庭教育学級

新型コロナウイルス感染拡大の影響で開設学級数が大幅に減少していたが、令和4年度は緊急事態宣言に伴う活動自粛などはなかったため、開設数は回復傾向にある。

熊本市立金峰山少年自然の家新施設整備運営事業 事業概要

- 1 事業名称：熊本市立金峰山少年自然の家新施設整備運営事業
- 2 事業場所：熊本市西区池上町 3071-5
- 3 事業目的：恵まれた自然や環境に配慮した施設を活かした環境教育等、質の高い教育や学びの場を提供し、利用者ニーズに合致した公共サービスの提供や効果的かつ効率的な業務を遂行する。
- 4 事業方式：P F I法に基づき、事業者と熊本市が事業契約を締結し、事業者自らが本施設を設計・建設（一部改修）し、所有権を市に移転した後、維持管理及び運営を行う BTO（Build Transfer Operate）方式
- 5 事業期間：令和4年（2022年）12月20日～令和22年（2040年）3月31日
- 6 契約金額：2,420,755,209円
（ただし、金利の変動又は物価の変動により増減することがある。）
- 7 契約相手方：熊本市東区健軍本町23番5号
金峰山ビレッジ株式会社
代表取締役 藤吉 一真
- 8 指定管理者：金峰山ビレッジ株式会社
指定期間は、令和6年（2024年）4月～令和22年（2040年）3月31日
- 9 金峰山ビレッジ株式会社の概要
（1）設立日：令和4年（2022年）10月20日
（2）事業内容：熊本市立金峰山少年自然の家新施設整備運営事業に関する設計業務、建設業務、維持管理業務、運営業務及びこれらに付随する又は関連する一切の業務
（3）株 主：株式会社三津野建設、株式会社環境デザイン研究所、株式会社産紡設計、株式会社オーファス、株式会社R.project、フロンティアコンストラクション & パートナーズ株式会社

10 新施設の提案概要

【新施設のイメージ】



主な施設	延床面積	主な構造	改修
管理棟（事務室・保健室・研修室等）	337㎡	木造	
多目的ホール	293㎡	鉄筋造一部鉄骨造	○
森林学習スペース	34㎡	木造	
宿泊棟A（8棟）	75㎡	木造	
宿泊棟B（4棟）	45㎡	木造	
バリアフリー対応宿泊棟	81㎡	木造	
食堂棟	252㎡	木造	
浴室棟	173㎡	木造	
野外炊飯棟	192㎡	木造	○
屋外多目的ハウス	180㎡	木造	○
天体観察デッキ・ワイルドタワー	113㎡	木造一部鉄骨造	
その他の施設 常設テント（3張り、ウッドデッキ敷き） 観覧席（ウッドデッキ敷き） 駐車場（大型バス3台、普通車25台、優先車両5台、職員用7台）等			

- ① 「はぐくむ」「つなぐ」「めぐる」をコンセプトのもと、子どもから大人まで多くの市民の利用を促し、かつ将来にわたり子どもたちがまた戻って来たくする施設を目指した取組方針やその実現に向けた具体的な提案

地場の木材による木造建築として、周辺景観に調和した建物である点や敷地全体を有効に活用した循環させる配置計画の提案。また、一般利用者の利用を想定した宿泊室や天体観察テラスと遊具を一体に整備する等、子どもから大人まで多くの市民が自然の中で楽しめる施設整備の提案

点検・保守・修繕の内製化や設備遠隔監視を導入などライフサイクルコストの低減に関する提案や緊急時・災害時に備え24時間対応可能な体制構築の提案

小学校の宿泊体験学習に加えて、新しい自然の家のモデルとして、一般利用者の施設予約方法や一般利用者向けプラン等の提案。また周辺地域の自然や歴史を知り郷土愛や仲間との絆を強くする多様なプログラムの提案

11 今後のスケジュール（予定）

時期	内容
令和5年（2023年）1月～	事前調査、基本設計、市民ワークショップ等
令和5年（2023年）4月～	実施設計、現施設解体等
令和6年（2024年）1月～	新施設建設（一部改修）等
令和6年（2024年）4月～	指定管理者による運営準備
令和7年（2025年）2月	熊本市へ新施設の引き渡し及び所有権移転
令和7年（2025年）4月	新施設の供用開始
令和22年（2040年）3月	事業期間終了